

# 小学校（クラブ活動）でのオリエンテーリング

静岡県OL協会・静岡県駿東郡清水町立南小学校  
教諭 富田 真澄

小学校で本格的オリエンテーリングクラブ！ その実践は、私たちに普及のためのヒントを提供してくれる。

## 1. はじめに

小学校でのクラブ活動は、多くが4、5、6年生児童対象で、年間15時間程の活動時間が割り当てられている。15時間の運用方法は学校ごとに異なるが、私の勤務先の清水町立南小学校では、年間60分×15回の活動が計画されている。クラブの設立方法も学校ごとに異なるが、清水町立南小学校では、児童の希望と教師の持つ技能や教師数を考慮して毎年クラブを見直している。児童から「こんなクラブを作りたい」という希望をとったり、教師から「こんなクラブを作れますよ。」と投げかけたりして、活動場所の確保も考慮し、実現不可能なクラブを廃部にしたり、新設したりしている。

2年前の2004年4月、私がオリエンテーリングクラブを作ろうという投げかけをしたところ、17人が集まり、日本初(?)の小学校のオリエンテーリングクラブが発足した。

必要だったのがまず、学校のO-map作りだが、幸いパートナー(Rob PLOWRIGHT)に恵まれ、程なくプロ仕様の地図が出来上がった。遊具のタイヤ1本1本まで正確に表記されているスクールO-mapは、職場の同僚たちには驚きだったようで、後に学校経営書の地図にも採用されることになった。シルバのミニコンパス15個は、村越久子さんから譲り受けた。コントロールフラッグは競技用より小さいミニフラッグを使用、コントロールチェックはわかりやすいクレヨンにし、O-mapの中にチェック欄を設けた。

## 2. 活動内容

このご時世、子どもだけで校外に出そうと思ってもなかなか許可がでない。第1回のクラブ活動は計画等に当てられるが、実質14回×60分の活動を、子どもたちを飽きさせることなく、どのように校内でやりくりするかが課題であった。雨の日は教室での活動となるため、それも考慮する必要があった。以下が実際に活動した内容である。

- 第1回 クラブ設立・活動計画
- 第2回 スコアOL
- 第3回 ポイントOL

- 第4回 (雨)校舎内での宝探しOL
- 第5回 (雨)校舎内宝探しクイズOL
- 第6回 宝探しOL
- 第7回 ラインOL
- 第8回 宝探しOL(個人戦)
- 第9回 スコアOL・コンパスゲーム
- 第10回 フォトOL
- 第11回 ポイントOL(個人戦)
- 第12回 宝探しクイズOL
- 第13回 フォトOL
- 第14回 宝探しOL
- 第15回 (雨)WOC2005 in 愛知 DVD鑑賞(個人戦)と書かれていない回は全て、2-3人または3-4人のグループで行った。

### 宝探しOL

コントロールの位置が記されていない白地図で行く。宝探しのように、校内に設置されたコントロールを探し、見つけた場所に円をかく。かかれていた場所が間違っていたら0点、1cmずれていたら-5点、あっていたら10点などと加点していく。合計得点で競う。教師があらかじめ設置しておいたこともあるが、準備時間がとれない時などは、子どもたちに自由に、または位置が重複しないよう範囲を指定してコントロールフラッグを設置してもらった。

子どもたちは、コントロールフラッグを「隠してくる」ことも楽しかったようである。しかし、地図の正確な場所に円をかくことは、まだ難しい子もいる。加点・減点は、臨機応変に対応することが必要である。宝探しOLに、子どもたちが考えたか×で答えられるクイズをコントロールフラッグごとにつけたのが、宝探しクイズOLである。異年齢集団なので、高学年の子には、「一番年齢の低い学年の子でも答えられる公平な問題にすること。」という条件をつけた。これも、クイズに正解すると10点などと加点し、合計得点で競う。



走った後、「ねえ、ここどう行った？」



「あつた！」ペアで協力してまわります。

### ラインOL

ラインのかかれた地図を持ち、ラインに沿って歩く。コントロールフラッグがあった場所に円をかく。あとは、宝探しOLと同じ要領で、合計得点で競う。慣れてきたら、ラインの外にも、にせコントロールを置いて難易度を上げて行く。

### コンパスゲーム

任意の場所に立ち、地面に目印を付けておく。コンパスを任意の角度(0°~120°)にセットし、場所の広さに応じた歩数進む。止まったら、最初の度数に120°を加えた度数へ、同じ歩数だけ進む。進んだら、その度数にさらに120°加えた度数に、同じ歩数進む。正三角形を描きながら進むことになり、全てを正しくやると、同じ場所に戻ってくる。(参考文献:『オリエンテーリングのための地図とコンパスゲーム』横山治男著 昭和54年、不昧堂出版)

スコアでは、スタート前に作戦タイムをとり、グループ毎にルートプランを立てるようにした。また、オリエンテーリング終了後は、地図にルートをかきこみ、友達と比べる時間をとった。大人のオリエンティアと同じく、走った後のルートの比較は小学生にも楽しい時間のようなだった。

校舎内での宝探しOLは予想以上に好評で、「もっとやりたかった。」の声も。ただし、「走らない」というルールを作っても夢中になって廊下を走り回る児童が続出したため、「走っているのを見かけたら失格」という厳しいルールに変更したりした。最後の活動日は雨だったため、愛知での世

界選手権のDVD鑑賞をした。自分たちの想像を超える競技としてのオリエンテーリングに、どの子も驚いた様子だった。

### 3. アンケートより

以下は、平成17年度の清水町立南小オリエンテーリングクラブに所属した児童へのアンケート結果である。

1年間通して、校内での活動だったが、楽しんでくれた子が多かった(とても楽しかった+楽しかったで14名:全体17名中)。後述の自由記述欄にも、好意的な意見が書かれていた。

清水南小学校では、3年間で基本的になるべく異なったクラブを体験することを推奨しているため、「来年(これから)もまたやってみたいですか。」の質問に対して消極的な意見も出てきたと考えている(ぜひやりたい、またはやりたいが各4名、どちらでもないが7名、あまりまたは全然やりたくないが各1名)。

学校の外でのオリエンテーリングに参加したいという児童をいかに増やすかが課題である(是非参加したい、または参加したいが計7名。全体の1/3強である)。参加したいと考えている子たちのためにも、初心者向けのパーク-OなどをいかにPRしていくかも重要になってくる。近隣で大会が開催されることを知らない場合もある。

意図的に個人でやらせてみたりもしたが圧倒的にグループでやる方が好きだという子が多い(15名がグループ、1名が一人を選択)。尚、1人でやる方が好きと答えた子は、5年生男子である。

楽しかった種目は最高がフォトO、ついで宝探しO、ポイントOの順だった。その他に書かれていたのはスコアOLであったが、自分のミスで選択肢にスコアを入れ忘れたため、実際はスコアにももっとポイントがついたと思われる。

#### <アンケートの自由記述欄より ~感想ももっとやってみたいことなど~ >

- ・フォトオリエンテーリングが楽しかったので、もっとやりたかった。運動が嫌いな私ですが、オリエンテーリングをやったことによって、運動が好きになりました。
- ・コントロールフラッグを探すのが楽しかった!!(隠すのも)。フォトオリエンテーリングをまたやりたい。たくさん走って疲れるけど、やりがいがある、また入りたい。(持久走の練習にもなるし。)時間内にやるのが大変だったけど、スリリングで楽しかった。
- ・5年生の時からこのクラブがあれば良かったのに。まだやりたいなー。(6年女子)

- ・来年もやってみたいけれど、他にやりたいクラブがあるから、そのクラブに入れなかったら入ってみたい。
- ・「コンパス」の使い方もわかったし、いろんなオリエンテーリングがあって楽しかった。
- ・オリエンテーリングは楽しかったけど、少し疲れた。
- ・最初は何をやるかあまりわからなかったけれど、やっているうちにやるのがわかって楽しかった。
- ・オリエンテーリングクラブの誤解が多い。他の人はあまり知らない。
- ・オリエンテーリングを知らない人がたくさんいるので、オリエンテーリングをもっとみんなに広めたい。

「運動が嫌いな私ですが、オリエンテーリングをやったことによって、運動が好きになりました。」という感想や、「オリエンテーリングを知らない人がたくさんいるので、オリエンテーリングをもっとみんなに広めたい。」という意見など、実質14時間のクラブ活動の中でオリエンテーリングの良さをここまで感じてもらったことはたいへんうれしく、すばらしいことである。やはり、オリエンテーリングを知ってもらう機会を提供することは大切だと感じた。

### 4. 若年層への普及を目指して

日本では、学校で「オリエンテーリング」と言えば、「レクリエーション」と混同され、林間学校などでのウォークラリーを連想する者がほとんどだと思うが、クラブ活動等で競技の入り口としてのオリエンテーリングを楽しむことは、将来のオリエンテーリング愛好者を増やすのに効果的だと考える。

小学校のクラブ活動でオリエンテーリングを普及させるためには、まず、スクールマップの作成と指導者の確保が課題となる。

児童数が多いと2人の場合もあるが、通常クラブ担当教員は1クラブ1人であり、休み時間にトイレに行く時間もままならない多忙な業務の合間を縫って、コース設定、地図のコース印刷、設置など、クラブの準備をするのは、好きでもなければかなりの負担である。また、実際オリエンテーリングを知っていて、指導できる教員もほとんどいない。近年、クラブ活動等にも地域のボランティア人材を活用しようという動きが高まっているので、オリエンテーリング指導のボランティアを学校に申し出る、興味を持ってくれる教員へ指導法を伝えるワークショップを開くなどの機会を提供していくことが必要だろう。

自分の場合、(ほとんどの学校で同じ条件だと思うが)学校のパソコンには予算上O-CADをインストールできなかった

め、O-CADでのコース設定・地図印刷等は自宅で行った。地図作成、コース設定・印刷をし、クラブの時間に指導する人材と予算が確保できれば、もっと多くの児童と教師にオリエンテーリングの楽しさを味わってもらえる。実際、勤務先の学校でオリエンテーリングクラブの活動を見て、「楽しそうだね。」とか、「地図をよむ力って大切だね。」などと好意的な声をかけてくれる同僚も多かったが、皆、自分が指導するとなると無理、または大変と考えているようだった。

アンケートで、17人中16人が、「グループでやる方が好き」と答えた結果からも明確なように、小学生は個人よりもグループでオリエンテーリングをすることを好む。

一般の初心者向け大会でも、今まで通り、初心者・若年者がグループや家族で取り組めるコースを提供し、個人で走ることを初めから強制しないようにしていきたい。また、ポイントやスコア以外に、フォトOLを取り入れるのも良いだろう。

学校でオリエンテーリング活動を普及することに課題は多いが、小さな頃からオリエンテーリングの楽しさを知り、興味を持つ子どもが増えることで、オリエンテーリングの裾野が広がっていくことを願っている。

(富田真澄)